

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／本田 亮

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科研費獲得は研究の目的ではないので、科研費獲得のために研究テーマや方法を考えることはあるべき姿ではない。したがって、科研費申請に向けて特別に計画することはない。研究を遂行していく上で科研費が必要と判断したら、これを申請する。また外部資金は科研費だけではない。科研費以外の外部資金についても同様の考えである。

2. 点検・評価

過去数回獲得した科学研究費助成事業の内容を発展させたテーマで、2013年度科学研究費助成事業基盤研究(C)に分担者として応募し、これを獲得した。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

教員が個人的できることはほとんどないと思われる。そのような状況で、各コース、各教員はでき得ることを行ってきた。それらをできるだけ維持するのみである。具体的には、限られた知人に本大学院の情報を伝えることである。それよりも、今までコース等から出された案に対して、執行部ではどのように考え、対処されてきたかを知る必要があると考えている。大学としての戦略を知らなければ、教員は身動きできない。

2. 点検・評価

大学院入学選抜試験合格者への案内の編集と2014年度大学院ガイドブック作成のコース担当を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

オフィスアワーを設けず、学生からの質問には適宜対応する。

2. 点検・評価

従来からの方法を踏襲し、授業内容に関する質問と指導とに適宜対応した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

本学設置の実験装置を利用した実験を行う。また、物理関係の教材開発を、その物理的評価を基にした利用方法の議論を中心に行いたい。以上、従来のものから特に変更はない。

2. 点検・評価

物性物理関係および物理教材開発に関する研究を続けており、数編の学会発表、論文発表を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

研究・教育に支障のない限り、割り振られた委員の委員会に出席し、その内容報告を部会議・教育コース会議で行う。

2. 点検・評価

担当している委員会へは毎回出席するのはもちろん、他委員会についても代理出席を行った。会議においては、疑問点を残さないように、質問、意見を述べるよう努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

外部から依頼が協力可能であると判断したときは、研究、教育など他の業務に支障のないようにその都度計画を立て協力をを行う。

2. 点検・評価

フレンドシップ事業を例年通りに行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

大学機関別認証評価に係わる報告作成の一部を担った。